

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## ○記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	街かどケアホームあやか
所在地 (県・市町村名)	寝屋川市木屋元町13番5号
記入者名 (管理者)	吉田 亮夫
記入日	平成 20 年 11 月 3日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	6つの運営理念を掲げ、地域の中でその人らしく暮らせるよう、地域福祉の向上を目指している	新しく、「ホスピタリティ」という理念を掲げ、思いやりと、心からのおもてなしと、ご利用者様が言葉に出されないニーズにも応えていきたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入社段階から、就業説明会を行い、採用後、研修や各事業所での話し合いをし、実現に取り組んでいる	引き続き、勉強会などで理念の共有を図っていきたい
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居時の前に行う重要事項説明の際、理念をしっかりお伝えし、また、運営推進会議や日々の生活の中で日常の会話などにより、理解してもらえようしている	引き続き、運営推進会議を通し、地域の方々に理念の浸透を図っていきたい
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日々、施設周辺の清掃や、近くを通りかかった方などに対し、挨拶を徹底している	引き続き、挨拶や、近隣の方の話に耳を傾け、より一層、親密な関係をつくれるように努力していきたい
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お祭りなどの行事の際は、地域住民にチラシを配ったりして、行事の参加を促している。地域の盆踊り大会に参加して交流を深める努力も行っている。	今後、地域の自治会行事や近隣の小学校の運動会などに参加していけるように努力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	入居の問い合わせ時や、あやかへの見学も含め、その時に相談される事がある。 その後も、私達の持ちよる情報などで役に立てればと思い、公的なサービスにつなげている。		地域の中の情報や、家族の立場にたった発想など、事業所を直し橋がかりになれる様、努める。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	半年に一回自己評価を行い、改善すべき点があれば、会議等で改善していく努力をしている。		自己評価した内容に対し、職員皆で会議し、より一層努力していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で頂いた貴重な意見を事業所の課題とし、全職員に伝え改善し、さらなる向上を目指している。		再度、自治会や福祉委員などに運営推進会議への参加を呼びかけていきたいです。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役所には最低でも週に1度伺い新しい情報など、共用できる様にし、グループホームのあり方や、役割り、他の事業所の取り組み等、話す事をかかさない。		引き続き、定期的に行う予定です。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度、市の権利擁護を利用されている利用者もいらっしやり、常に連絡し合い、話し合い、支援している。		制度についての理解、職員が周知できる様、管理者・役職者を中心に、今後も取り組んでいく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	我々の理念にもある様に、人生の大先輩であるご利用者に虐待はあってはいけない。 さまざまな場面での虐待を聞くと、周りの関わりが大事である事、私達はその役割りを担える事があれば・・・と考えています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者は生活の環境が変わるので、不安があつて当然であり、ご家族においてもじっくり関わり、重要事項の説明時にわかりやすく説明することを徹底している。	職員全員がわかりやすく説明できる様になる為の勉強会やトレーニングを行っていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所内に苦情相談窓口の職員を置いている。外部の第三者機関も知らせる様に重要事項説明時・契約時にも説明している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	基本的に、電話等で週に1回近況報告を行っている。家族に合わせ、電話ではなく、メールや手紙でも行い、利用者の環境作りを一緒に考えている。	引き続き、都合の良い曜日・時間等を考慮し、家族への報告を行っていく。 本部にも苦情相談窓口を設け、家族様が事業所に言いにくいことを拾えるようにしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	近況報告等を通し、職員と家族が蜜になるよう心がけている。苦情や意見があつた場合、電話での対応に終わらせず、訪問するなどし、その日のうちに処理している。その他、玄関先に家族の思いを取り入れることが出来る様に、提案ボードを設置している。	その他、職員と家族との信頼関係を崩さない努力をすることで、ご家族から積極的にご意見をいただけたと考えている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者であれ、職員には変わらないので、常にお互いの意見や提案を一緒に考え、一緒に結果を出せるよう取り組んでいる。	管理者・職員間の信頼関係を保ち、今後も意見の言いやすい環境を作る。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	共に生活している職員から、利用者や家族の近況の変化、要望を聞き出し、必要に応じて勤務の調整を行っています。	これからも、利用者や家族の近況の変化を逃さないよう、固定概念に捉われず柔軟に対応していきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が長期の出張や休暇などで、事業所を留守にする場合であっても、ダメージを防ぐ配慮をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内にて現任研修・役職者研修を行い、スキルアップを計っている。又、必要に応じて外部の研修にも参加している。本年度より、毎月、3～4回スキルアップ試験を実施し、職員の能力向上を図っている。	各職員がそれぞれ自分に足りないところ、もっと勉強したいところの試験を行い、スキルアップを図っていく。社会福祉協議会などが主催している、感染症防止及び、食中毒防止の研修会にも積極的に参加している。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	寝屋川市の地域包括支援センターが進めている、「ネットワーク会議」に参加し、地域の同業者と交流することで、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。	ネットワーク会議が3ヶ月に1度ある為、参加していく。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の希望休を聞き入れることで、ストレスの軽減をはかっている。	取り組んでいく中で、勤務時間内での記録等により、早く帰宅できる様にしていっている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の適材適所に応じた仕事を任せる事により、本人の向上心をかきたてる様、努めている。	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご相談に来られてから本人に会わせて頂き、入居に至るまで、なじみの顔・関係づくりを行い、入居当日、その職員の顔が必ずある様にしていく。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談頂いてから、不安やわからない事など、いつでも問い合わせて頂いたら、すぐお答えできる様、職員の質を上げている。こちらから出向き、瞬時の対応を心がけている。	家族からの情報収集と同時進行で、当事業所のケアマネージャーと本人の担当ケアマネージャーを通じて、本人の情報を少しでも得ることが出来る様に取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が必要としているサービスを提供することは大切です。ご本人の生活を一緒に考え、ご家族や関係者と相談している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験利用(入居)を実施している。また入居されるまでの間、顔なじみの関係を構築するために、本人にお会いしに行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者主体であり、皆さんご自身が生活されている。私達は共に生活し、一緒に過ごさせて頂いている。理念にもあるように、高齢者の経験・知識に尊敬と敬意の念をもって接していきます。学ぶ事はたくさんで毎日が勉強です。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者にとってご家族は大切な存在であり、私達にとっても大切な方々である。「ご家族の思い」も受け止め、一緒に考え、生活の質の向上に取り組んでいる。		今後も、ご家族と共に一緒に考えていきます。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人とご家族とのこれまでの関係を理解し、支援することは容易ではない。介護のプロとしてお手伝いできることは支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの生活や関係を、そのままあやかでして頂く事が1番であると考え、これまでの生活にあった関係は今でも続いている。そのためにアセスメントはきっちりとしている。		今まで利用されていた美容室、今まで住んでおられた時に通っていた商店街など、言われたらすぐ行って頂ける様、場所の把握など、職員統一を行っている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者同士が共同生活をしている以上、ケンカやもめられることはある。ご利用者同士で解決するのが大半であり、ご利用者同士の関係を理解し、関わって接している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても、手紙などでやりとりを行ったり、周年行事の際もお誘いしている。入院されたのち、サービスを終わられても、お見舞いに行かせて頂いたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人主体で理念を元に希望や思いを入居前・入居後とお聞きし、困難な場合はご家族や関係の方々からの情報を元にご本人本意の希望や思いの把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人のプライバシーに配慮しながら、ご本人の趣味嗜好や日課とされていた事、生活に対してのこだわりなど把握している。		本人からの情報収集と同時進行で、当事業所のケアマネージャーと本人の担当ケアマネージャーを通じて、本人の情報を少しでも得ることが出来る様に取り組んでいる。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ご本人の過去～現在～今後の暮らしに対しての思いに沿って、ご本人の自立した生活を実現できる様、現状の把握に努めている。		本人からの情報収集と同時進行で、当事業所のケアマネージャーと本人の担当ケアマネージャーを通じて、本人の情報を少しでも得ることが出来る様に取り組んでいる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	必ず、ご本人がどのような生活を望まれているのかを伺っています。また日常会話などで出された発言や思いに対して取り入れ、ご家族の意向も聞いています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しについては、利用者のニーズが変更になったり、状態が変わった時、その時の対応についてや関わり方などを介護計画に取り入れ行っている。		見直しの時期に迅速に行われているかを役職者を中心に担当者と話し合い、ご家族の方々に話しを持っていきながら、今後も作成できる環境を作っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、生活の中での出来事・思い・他の方との関わりに関しても含め、介護計画の中でのニーズを中心に記録し、見直しに活かす様心掛けている。		生活24時間が通してわかる様、記録に関して気をつけていきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望に応じて柔軟に対応している。ご本人のその一瞬を逃さない様、職員が連動して動いている。		ご利用者の一瞬一瞬の思いを逃さない様、出して頂いたニーズに対して対応していく。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	自治会には、家族会や大きな会議・説明会の際、集会所を借りたり、イベントなどでボランティア的に地域の住民の方が来て下さったりしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現状、入居前からの暮らしや関係を切らない様にして為、必要であればリハビリの為労健等に通われていたケースもあり、担当のケアマネや他サービスの方々とも関わっている。		今後も、他サービス事業者や、担当ケアマネージャーと親密にしていき、つなげていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター主催のネットワーク会議に参加し、情報の交流は行っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの本人が安心し、信頼されている医療機関を望まれているケースは多い。協力医だけでなく、希望される病院への受診支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		今後、看護師の採用にも力を注ぎ、医療との連携が図れるように取り組んでいきたい。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		お見舞いだけに終わらず、ご家族や医療機関との関わりを常にかかさない。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		入居される前に、当事業所が終末期の方に対する支援とその限界を家族や本人に説明し、お互いに納得したうえで入居していただく。また、入居後も介護計画に本人と家族の意向を確認し、総合的に支援していけるように配慮していきたい。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについて半年に1度、同意書を書いて頂いています。 人生の大先輩であるご利用者の話にも配慮している。 独自のチェックシートを活用し、職員同士で注意し合えるように努力している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定が出来るよう会話など注意し、本人の思いを伝えてもらえる様に職員もあわただしくせず、ゆっくり関わりを持つ様なふるまいをしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を押し付ける様なことは一切していない。日々、その方の生活の中で邪魔にならない様にしている。	常に1人1人を真ん中に考え、支援していく事を続けていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご利用者の意思の元に、理容・美容は今まで行っておられた場所や、近くの美容室や訪問を利用している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さんそれぞれに食の楽しみ方は違います。 たくさんで食卓を囲むのが楽しいと思われる方や、1人で食べることを望まれる方もいる。 朝、新聞のチラシで何を食べたいか決める方もいる。 準備や片付けもされる人もいれば、職員がさせて頂く時もある。	我々が日々食べたい物が違うように、ご利用者も18名いれば違って当たり前と考えている。 その時、その望まれる物を提供していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご本人の嗜好品が常にある様、意識している。 なくなれば一緒に買いに行き、頼まれれば買わせて頂くようにしています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄に関しては、自尊心や羞恥心を考えないといけない事だと考えています。おむつの使用に関しては、本人の状況に合わせて選ばせて頂いている。		デリケートな部分の為、本人の気持ちを一番に考え、今後も支援していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人の希望される時間に入浴出来るようにしている。朝風呂が好きな人もいれば、晩に遅く入られる方もいます。声をかけたり、説明や環境作りはするが、無理に入浴して頂いたりはありません。		入浴といっても1人1人の入浴の仕方はさまざまであって、清拭や足浴もできる工夫をしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご利用者の生活リズムの中で、ゆっくりされていらっしゃいます。1人1人が生活のリズムが違うので、個々への対応を行っている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	これまでの生活歴や楽しみ事などをお聞きし、ご利用者の日課や趣味など支援している。日々、暮らしの中での役割が1人1人思いが違うので、皆さん意欲的に行っておられる。		外出希望の方や、近くの喫茶店でのお茶を楽しむ方、遊びに行きたいと言われる方々へ、「行きたい」と言って頂ける関係や環境を作り続けていく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を持つ事で安心されたり、又は働いている賃金とらえたりされている為、希望に沿って持って頂いています。ご苦労されての今だからこそ大切な物であると考えている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関は日中、常に出入り自由な為開けています。又、外出に制限はなく、1人でお寺へお参りされる方もいます。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ドライブ・旅行・家族の家への外泊等、その時々個別であったり、集団(皆さんの思いで)であったり、機会はたくさんあります。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や大切な人に連絡出来る様にしている。居室に電話も引けるし、携帯電話を持たれる事、又事業所の電話を使用してもらってます。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会ではなく、ご利用者の家に子供や孫が来られることになる為、時間の制限はない。ご家族も気軽に来ていらっやいます。		ご家族がリビングでご自分でお茶を飲まれたり、ご利用者と一緒に食事されたり、居心地に関しては常に配慮している。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はあってはいけません。行動を制限したり、職員の都合での介護も虐待であると思っています。		徹底して身体拘束、虐待についての理解を全職員に行っている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていません。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	本人のプライバシー、本人の思いをまず考え、所在の確認をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	必要な物は、普通に置いている。洗剤も洗濯場に置いている。薬品関係は場所の工夫をしている。		利用者の生活に必要な物は、普通にご利用者の目線・動線には必要な物を、そうでない物は目線・動線を外した場所に置くようにしている。その都度説明している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	まず勉強会を開き、話し合う場を持つようにしています。必要に応じてのシュミレーションを行い、いかなる場合でも対応出来る様、取り組んでいる。		必要に応じてご家族や市町村、かかりつけ医に報告をしています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	入社の際、研修や救急救命の講習を受けるなど、又現場ではシミュレーション研修を行っている。		知識や技術を保つには、自分達でスキルアップ出来る様、勉強会を事業所の中で行っている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を行っています。災害時の消火訓練も年1回、消防署の力を借りて事業所内で行っている。		避難経路の確認や、地域の方への協力もお願いしている。逆に近隣の方が困っている時は、当事業所を使って頂く様、話しをしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居の際、説明させて頂いている。入居後も報告を行い、確認させて頂くが、本人の生活の幅が狭くならない様につけている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	往診に来てもらったり、救急対応している。様子を見るべき内容と救急隊にお願いする内容を見極め早期の対応を心掛けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の知識を勉強することや、1人1人の用途を理解し、服薬の支援をしている。薬剤に関しては鍵のかかる場所に保管し、配薬時の確認を徹底している。		服薬も個人によってはその都度説明し、配薬させて頂いている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事や水分を注意し、便秘がちな方へは、かかりつけの医師に相談している。おなかのマッサージや薬の処方以外、便通が良くなるものを取って頂く工夫をしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個人個人で違うとは思っているので、その方々に応じた口腔ケアのお手伝いを行っている。口腔内の状態を把握し、気をつけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的には、外部業者より食材を供給してもらい、栄養バランス表をもとに御利用者と調理を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	基本的に「手洗い・うがい・消毒」をご利用者にもお声をかけし、して頂く様お願いしている。 夜間、消毒液にてのフロア全体の殺菌も行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品についての賞味期限の確認をしている。 調理用具はその都度食器乾燥機での殺菌と、冷蔵庫から長時間出しっぱなしにしているものは食べて頂かない様にしている。		食中毒防止に伴い、夜間ハイター消毒後、乾燥する事を引き続き行う。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	誰でも出入りしやすい様、鍵はかかっておらず、近隣の方もお孫さんを連れて入り口にいる鳥を見に来られる時もある。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、時期的な物を置いたり、生活の中である日めくりや、いつでも読める週刊誌、浴室は24時間入って頂ける様、貼り紙をしています。		それぞれ個々によつての居心地のよさは違うので、その都度聞きながら続けていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員の事務所であった空間を小さな第2リビングとし、テレビ・ソファ等置いている。 空間ヶ所にソファを置き、場所を選べるように取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	まず入居時に説明し、お願いしている事は、今までの使い慣れたものを持ってきて頂く事です。ご家族の協力のもと、部屋の家具がそのまま配置されている方もいらっしゃいます。		1人1人の居室には、その方の生活があらわれています。私達はプライバシーに配慮していかなければならない。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や部屋の温度、又はリビングの温度には注意している。室温については利用者の体感温度で行っている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設計時から取り入れ工夫している。手すりの設置や床材の配慮がされている。本人が自立した生活を送れる様、お1人の方の為でも、つっぱり棒を設置している。		ご利用者1人1人の身体機能に合わせ、必要時は考え、行動することを心がけている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々にとっての自立というものが違うため、自立した生活が送れるよう、環境作りに配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	1階の中庭では、ご利用者が花や草木を植え、花壇を作られたり、土を掘り起こし、野菜の苗を植え育てている。2階のベランダは植木に水をあげる方もいる。		草花や畑をされる方の為、場所を作ったり、玄関では雑草を抜いて下さったり・・・ご本人自らされておられる。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ <small>職員の 希望は</small>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

「ご利用者の満足度を高めたい」という職員の姿勢は心から一人一人を思う気持ちであります。日々考えこれでよいと思わず利用者中心を実現している。。